



あたらしい 農業技術

No.581

上質な味と香りの茶早生品種
「しずかおり」

平成 25 年度

要 旨

1 技術、情報の内容及び特徴

- (1) 「しずかおり」は、「おくひかり」を種子親に、「くりたわせ」を花粉親として1989年に交配した実生群から選抜し、2013年に品種登録出願、同年出願公表された茶新品種です。
- (2) 「しずかおり」の早晚性は、一番茶摘採期が「やぶきた」と比較して2日早く、「おおいわせ」よりも1～3日遅い「やや早生」です。
- (3) 「しずかおり」の耐寒性（赤枯れ）はやや強であり、耐病虫性は炭疽病が中、赤葉枯病、赤焼病がやや弱、クワシロカイガラムシが中です。
- (4) 「しずかおり」の収量性は、「やぶきた」と比較して10a当たりでは一番茶が101～105%とほぼ同等、年間では118～136%とやや多いです。
- (5) 「しずかおり」の品質は、一番茶、二番茶ともに総体的に「やぶきた」を上回り、特に香氣、滋味、色沢が優れます。

2 技術、情報の適用効果

- (1) 「やぶきた」と比較して一番茶摘採期が2日早いため、組合せ栽培が可能であり、摘採期の分散、製茶工場の稼働率向上などに有効です。
- (2) 香味に極めて優れるとともに収量性も高いため、上級茶の多量生産が可能であり経営の安定化に寄与できます。

3 適用範囲

- (1) 本品種は調査した平坦地（菊川市）、山間地（川根本町）において、生育が良好で、収量性、品質性も「やぶきた」以上であり、東部地域（富士市）においても生育及び耐寒性、耐病虫性が「やぶきた」と同等、またはそれ以上であることから、県下全域に導入可能な品種です。
- (2) 本品種はやや早生で品質が優れるため、品種組合せにより経営の効率化、規模拡大を図る経営体や、上質な味と香りを活かしてブランド化を目指す地域・経営体に適します。

4 普及上の留意点

- (1) 赤焼病の発生がやや多いため、例年発生の見られる地域や幼木園では、防風対策や薬剤散布などの対策が必要と思われます。

目 次

はじめに	1
1 来歴及び試験経過	1
2 一般特性	1
(1) 形態的特性	1
(2) 生育特性	2
(3) 早晚性	2
(4) 寒害及び病害虫抵抗性	3
3 収量特性	3
4 品質特性	4
5 特性のまとめ	5
6 適地及び栽培上の留意点	5
おわりに	6

はじめに

「やぶきた」が誕生してから100年あまりが経過しました。スーパー品種「やぶきた」は、現在、全国の茶園の75%、静岡県に至っては実に93%に普及し、本県茶業のみならず、日本茶業発展の原動力となってきました。

しかしながら、近年では摘採期の集中化や香味の画一化など「やぶきた」偏重の弊害が顕在化し、低迷する茶業情勢の中で、新しい品種の開発、普及が急務となっています。

このたび当センターにおいて育成した「しずかおり」は、生育、品質面等の特性が優れ、本県の茶業振興に寄与するものと考えられますので、本品種の普及拡大を図るために諸特性を紹介します。

1 来歴及び試験経過

- 1989年 交配（種子親「おくひかり」×花粉親「くりたわせ」）
- 1992～1997年 個体選抜
- 1997年 苗床選抜
- 1998～2003年 栄養系比較試験
- 2005～2011年 奨励品種選定試験
- 2013年 品種登録出願、出願公表



写真1 「しずかおり」の一番茶新芽

2 一般特性

(1) 形態的特性

「しずかおり」の一番茶新葉は、形は楕円で厚さはやや厚く、葉質はやや硬です。大きさ、色、光沢は「やぶきた」並みです（表1）。成葉については、形は倒卵形で「やぶきた」よりもやや丸く、厚さはやや厚、色は濃緑で光沢は多、葉面のしわは「やぶきた」並みですが、葉縁の波は中で「やぶきた」よりもやや少ないです（表2）。枝条の分枝数、節間長、着葉角度は「やぶきた」並みですが、太さはやや太いです（表3）。

表1 一番茶新葉の特性

品種名	形	大きさ	厚さ	色	光沢	葉質
しずかおり	楕円	中	やや厚	緑	やや多	やや硬
やぶきた	長楕円	中	中	緑	やや多	やや軟

表2 成葉の特性

品種名	形	大きさ	厚さ	色	光沢	葉面のしわ	葉縁の波
しずかおり	倒卵	中	やや厚	濃緑	多	中	中
やぶきた	長楕円	やや大	中	緑	やや多	中	多

表3 枝条の特性

品種名	分枝数	節間長	太さ	着葉角度
しずかおり	中	中	太	中
やぶきた	中	中	中	中

(2) 生育特性

「しずかおり」の生育特性は、平坦地（菊川市、以下同）、山間地（川根本町、以下同）の両調査地において樹高、株張りとも「やぶきた」よりも優れ、樹姿は中間型です。また、秋整枝量は「やぶきた」に比較して10a当たり、摘採面当たりとも極めて多く、樹勢は強です（表4）。

表4 生育特性

調査地	品種名	樹高 (cm)	株張り (cm)	株張り/ 樹高×100 (%)	秋整枝量	
					10a 当たり (kg/10a)	摘採面当たり (g/m ²)
平坦地	しずかおり	103	174	169	852	880
	やぶきた	101	158	158	421	510
山間地	しずかおり	126	135	108	989	1320
	やぶきた	112	121	108	439	673

平坦地：うね幅 180cm、株間 30cm、条間 50cm、樹高、株張りは定植 6 年目、
秋整枝量は定植 7 年目のデータ

山間地：うね幅 150cm、株間 50cm、条間 40cm、定植 7 年目のデータ

(3) 早晩性

「しずかおり」の一番茶萌芽期は、「やぶきた」と比較し平坦地、山間地とも 8 日早いです。早生品種の「おおいわせ」との比較では、両調査地ともに 1 日遅いです（表 5）。

一番茶摘採日は、調査年の平均で「やぶきた」に比べ平坦地、山間地とも 2 日早いです。「おおいわせ」との比較では、平坦地では 3 日、山間地では 1 日遅いです（表 5）。

以上の結果から、「しずかおり」の早晩性は、一番茶摘採期が「やぶきた」よりも 2 日早く、「おおいわせ」よりも 1～3 日遅い、やや早生です。

表5 一番茶萌芽期及び摘採日

調査地	品種名	一番茶萌芽期				一番茶摘採日			
		4年目 ¹⁾	5年目	7年目	平均	4年目	5年目	7年目	平均
平坦地	しずかおり	-7 ²⁾	-8	-9	-8	-1	-5	±0	-2
	おおいわせ	-8	-9	-10	-9	-4	-5	-6	-5
山間地	しずかおり	-1	-13	-8	-8	+4	-3	-7	-2
	おおいわせ	-3	-13	-10	-9	-3	-3	-4	-3

¹⁾定植後年数、²⁾「やぶきた」との差（-は早い、+は遅い）

(4) 寒害及び病虫害抵抗性

ア 寒害

「しずかおり」の寒害（赤枯れ）発生程度は、「やぶきた」に比べて同程度からやや多い傾向にあります（表6）。特に山間地においては、年により発生が目立つ場合がありますが、赤枯れに強い「やぶきた」から見て、「しずかおり」の抵抗性はやや強と考えられます。

表6 寒害（赤枯れ）の発生程度

調査地	品種名	2年目*	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	平均	最大
平坦地	しずかおり	3.0	1.0	2.0	1.0	2.5	1.0	1.8	3.0
	やぶきた	2.0	1.0	1.0	1.0	3.0	1.5	1.6	3.0
山間地	しずかおり	3.0	1.5	4.0	1.0	1.0	4.0	2.4	4.0
	やぶきた	3.0	1.5	3.0	1.5	1.0	3.0	2.2	3.0

※定植後年数、発生程度：1（無）～5（多）

イ 病虫害抵抗性

「しずかおり」の炭疽病の発生は、「やぶきた」に比べてやや少ない傾向です。赤葉枯病に対しては、ほぼ同程度と思われます。しかし、赤焼病に対しては、「やぶきた」に比べて発生が多い傾向ですので、幼木期や風の強い場所では注意が必要です。また、クワシロカイガラムシの寄生は、「やぶきた」とほぼ同程度と思われます（表7）。

表7 病虫害の発生程度

調査地	品種名	炭疽病	赤葉枯病	赤焼病	クワシロ カイガラムシ
平坦地	しずかおり	2.0(2.0)	2.3(3.0)	2.3(5.0)	1.8(3.0)
	やぶきた	2.6(3.0)	2.6(3.0)	1.8(3.0)	2.0(3.5)
山間地	しずかおり	1.9(3.0)	1.3(2.0)	1.7(2.0)	1.0(1.0)
	やぶきた	2.9(5.0)	1.3(2.0)	1.8(2.0)	1.0(1.0)

調査年数：炭疽病、赤葉枯病、赤焼病が6年、クワシロカイガラムシが7年

発生程度：1（無）～5（多）、データは調査期間の平均値、（ ）内は調査期間中の最高値

3 収量特性

「しずかおり」の10a当たり生葉収量は、凍霜害の影響で調査のできなかつた定植6年目を除く定植4年目から7年目までの平均で、「やぶきた」に比べて平坦地では一番茶が101%、年間が136%、山間地では一番茶が105%、年間が118%でした。このように一番茶が「やぶきた」とほぼ同等、年間ではやや多い傾向でした（表8）。

ただし、「しずかおり」の収量特性の特徴として、定植4年目の幼木期は収量が少なく、5年目、6年目と成園化が進むにつれて収量の増加が著しく、「やぶきた」よりも多収の傾向を示します。

摘採面当たりの生葉収量においても、定植4年目では平坦地、山間地とも「やぶきた」よりも劣りますが、5年目以降では上回る傾向を示します（表9）。

表8 「しずかおり」の生葉収量（10a 当たり指数、「やぶきた」=100）

調査地	定植4年目		定植5年目		定植7年目		平均	
	一番茶	年間	一番茶	年間	一番茶	年間	一番茶	年間
平坦地	49	87	117	135	136	187	101	136
山間地	67	93	131	131	117	131	105	118

表9 「しずかおり」の生葉収量（摘採面当たり指数、「やぶきた」=100）

調査地	定植4年目		定植5年目		定植7年目		平均	
	一番茶	年間	一番茶	年間	一番茶	年間	一番茶	年間
平坦地	49	85	107	120	123	174	93	126
山間地	63	88	113	113	94	104	90	102

一番茶の採摘調査では、平坦地では「やぶきた」とほぼ同等、山間地ではやや芽数型の傾向を示しました（表10）。

表10 一番茶採摘調査結果

調査地	品種名	摘芽長 (cm)	摘葉数 (枚)	出開き度 (%)	百芽重 (g)	摘芽数 (本)
平坦地	しずかおり	4.1	2.4	12	49.5	53
	やぶきた	4.1	2.9	34	49.6	49
山間地	しずかおり	5.4	2.7	16	58.2	58
	やぶきた	6.2	3.1	31	64.9	45

採：20cm×20cm、定植7年目のデータ

4 品質特性

「しずかおり」の官能審査による荒茶品質は、一番茶、二番茶とも総合的に良好です。山間地における一番茶品質が「やぶきた」並みであったものの、平坦地の一・二番茶、山間地の二番茶ともほとんどの審査項目で「やぶきた」を上回ります。特に香気、滋味、色沢が優れ、「やぶきた」と比べた指数では、香気が100～130、滋味が104～115、色沢が105～122と大幅に上回りました（表11、表12）。

審査概評では、「芳香、バニラ様の甘い香り、花香、うま味、そう快味」などのコメントがあり、総じて香味に優れた品種であると言えます。

表 11 「しずかおり」の一番茶品質（「やぶきた」=100の指数）

調査地	形状	色沢	香気	水色	滋味	小計点	合計点
平坦地	102	112	130	120	114	118	115
山間地	101	105	100	96	104	103	101

小計点＝色沢＋香気＋滋味、各調査値3年間の平均値

表 12 「しずかおり」の二番茶品質（「やぶきた」=100の指数）

調査地	形状	色沢	香気	水色	滋味	小計点	合計点
平坦地	100	122	121	100	115	119	110
山間地	115	117	124	101	114	118	114

小計点＝色沢＋香気＋滋味、平坦地は2年間、山間地は3年間の平均値

5 特性のまとめ

- 一番茶新葉、成葉ともに「やぶきた」に比べて形がやや丸く、厚さがやや厚いです。成葉は色が濃緑で光沢が多いです。
- 樹姿は「中間型」で、樹勢は「強」です。
- 早晚性は、一番茶摘採期が「やぶきた」に比べて2日早い「やや早生」です。
- 耐寒性は赤枯れ抵抗性が「やや強」です。
- 耐病虫性は、炭疽病は「中」、赤葉枯病及び赤焼病は「やや弱」です。クワシロカイガラムシに対しては「中」です。
- 収量性は一番茶、年間とも「やぶきた」と比べて幼木では「中」、成木では「多」です。
- 摘採期の収量構成は「やぶきた」並みです。
- 荒茶品質は総合的に優れ、特に香気、滋味、色沢が良好です。

6 適地及び栽培上の留意点

ここでは、平坦地（茶業研究センター、菊川市）と山間地（川根本町農林業センター）についてとりまとめましたが、生育及び寒害、病害虫の発生状況については東部地域（定植後2年間は茶業試験場（現茶業研究センター）富士分場（富士市、2006年度で廃止）、その後は富士市農協茶業研修センター）においても7年間試験を行いました。その結果は概ね平坦地、山間地と同様でした。

これらのことから、「しずかおり」は調査した平坦地、山間地、東部地域のいずれにおいても生育が良好で、耐寒性、耐病虫性も「やぶきた」並みであり、また、平坦地、山間地においては収量性、品質性も「やぶきた」以上であることから、県内全域で導入可能な品種です。

また、本品種はやや早生であるため「やぶきた」との組合せ栽培が可能であり、早晚性品種の組合せによる経営の効率化に寄与できます。さらに、香味に極めて優れるとともに成園化してからの収量性も高いため、上級茶の多量生産が可能です。これら品種組合せによる経営の効率化、規模拡大を目指す経営体や上質な味と香りを活かしてブランド化を目指す地域を中心に普及を図りたいと考えています。

栽培上の留意点としては、本品種は赤焼病の発生が多い傾向にあるため、幼木期や赤焼病の発生しやすい地域では、防風対策や薬剤散布などの対策が必要です。特に幼木期での多発生は落葉を伴い、その後の生育を大きく阻害しますので、十分な注意が必要です。

また、寒害（赤枯れ）の発生が「やぶきた」に比較してやや多く見られましたので、寒害発生の常襲地など、特に冬期の気温が下がる地域では寒害対策が必要です。

おわりに

今回育成した「しずかおり」を、定植後4年目に初めて品質調査をした際、香味のすばらしさに驚き、この系統を必ず品種にしたいと思いました。その時の審査概評には「甘みのある香り、花香、バニラ風味」との記録があります。その後、5年目、6年目、7年目と品質調査を続けてきましたが、毎年安定して「甘い香り」が感じられています。この甘い香りは、年により「火香」との概評が入ることもあり、仕上げ茶に似た香りとも言えます。

最近の育種目標として、当センターでは「香味に特徴のある品種」を最重要視しています。この育種目標に沿って「つゆひかり、香駿」を育成してきました。今回の「しずかおり」がこれらの品種と大きく異なる点は、「つゆひかり、香駿」がどちらかと言えば「やぶきた」とは明らかに異なる個性的な香味を有しているのに対し、「しずかおり」は「やぶきた」の香味をさらに上質にした本格的な煎茶の香味を有しているという点です。

この優れた品質特性を有する本品種が、今後生産現場に導入され、緑茶の消費拡大につながるにより静岡県茶業の発展に大きく貢献することを願っています。

農林技術研究所 茶業研究センター
栽培育種科長 鈴木康孝



写真2 「しずかおり」の一番茶摘採期の様子

発行年月：平成26年3月

編集発行：静岡県経済産業部振興局研究調整課

〒420-8601

静岡市葵区追手町9番6号

TEL 054-221-2676

この情報は下記のホームページからご覧になれます。

<http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-130a/>

